

Wedge

Guiding Japan forward

January 2023 Vol.35 No.1

CONTENTS

WEDGE_SPECIAL_REPORT



WEDGE



18

農業にもっと多様性を! 価値を生み出す先駆者たち

20

INTRODUCTION

農業をもっとクリエイティブに もっとイノベティブに
編集部

22

PART 1 農業の価値再考

前例がなければつくればよい ベトナム発の農業、
編集部

30

PART 2 有機農業

拡大し続ける世界市場 有機農業の黎明期に立つ日本
編集部

34

PART 3 都市農業

農業が都市にあることの価値 絶やさないためのヒント
出井康博 ジャーナリスト

38

PART 4 用途広がるコメ

「ごはん」だけじゃない コメが持つ無限大の可能性
熊野孝文 元米穀新聞記者

42

PART 5 小売業の役割

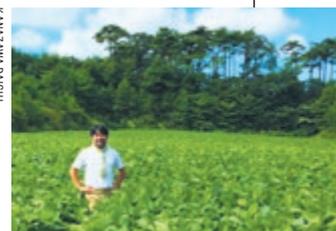
「売ればよい」から脱し 小売業は価値伝達業、たれ
笹井清範 商い未来研究所 代表

WEDGE

WEDGE

KAMAZAWA DAICHI

WEDGE



KAZUHIRO SHIZUKA, WEDGE

WEDGE_SPECIAL_OPINION

54 世界は「動乱の時代」へ 2023年、日本外交の課題

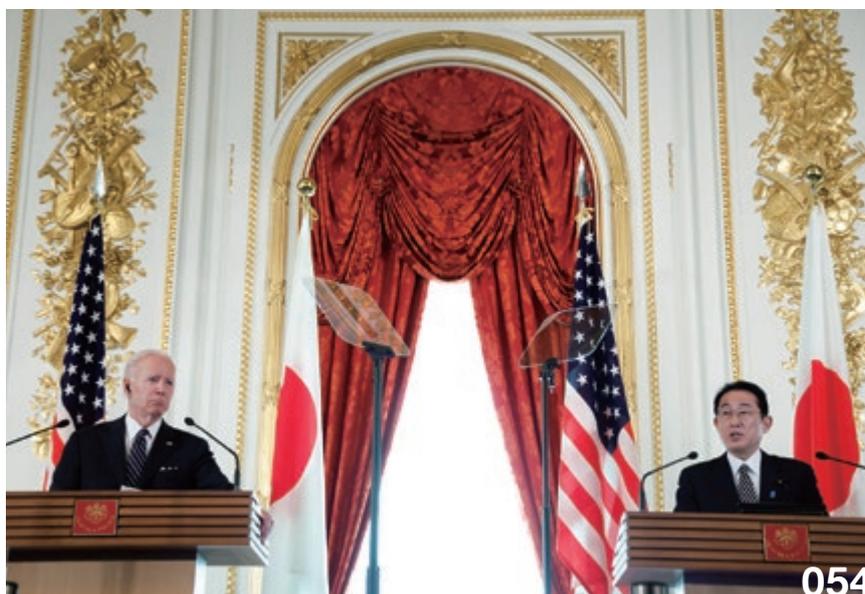
- 55 **PART 1** 米国政治は荒れ模様 それでも日米同盟は揺るがない
ザック・クーパー アメリカン・エンタープライズ研究所 (AEI) 上級研究員
- 58 **PART 2** 「多極世界」から「多極アジア」へ インド外交の鍵握る中国
溜 和敏 中京大学総合政策学部 准教授
- 61 **PART 3** 「大国なき時代」の中東 日本外交の自主性が試される
青木健太 中東調査会 研究員

WEDGE_OPINION

- 12 原発の運転延長を前提に新增設への制度設計を急げ
遠藤典子 慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート 特任教授
佐々木経世 イーソリューションズ 代表取締役社長

WEDGE_REPORT

- 8 「賢すぎるAI」の大競争時代 日本よ、取り残されるな 編集部
- 70 住民帰還で動き始めた双葉町 〝空白の11年、をどう埋めるか
稲泉 連 ノンフィクション作家



WEDGE_REGULARS

46 社会の「困った」に寄り添う行動経済学 〈実践編〉 | 佐々木周作 休暇取得の日数を増やすには？

48 インテリジェンス・マインド | 小谷 賢 米国独立の裏側で暗躍した 3人のインテリジェンスの父

66 新しい原点回帰 | 磯山友幸 最先端のブランドづくりに挑む老舗洋菓子メーカー

75 MANGAの道は世界に通ず | 保手濱彰人 『スラムダンク』に学ぶ 最強組織の作り方

76 **最終回** 天才たちの雑談 | 健康の鍵握る体内の「ゴミ掃除」 実は人体は謎だらけ

82 1918=20XX 歴史は繰り返す | 細田晴子 揺れ続けるスペイン内戦への評価 歴史とは何なのか

87 近現代史ブックレビュー | 筒井清忠 『暗殺の幕末維新史 桜田門外の変から大久保利通暗殺まで』 一坂太郎

90 時代をひらく新刊ガイド | 稲泉 連 『昭和の参謀』 前田啓介

92 Letter 未来の日本へ | 河合香織

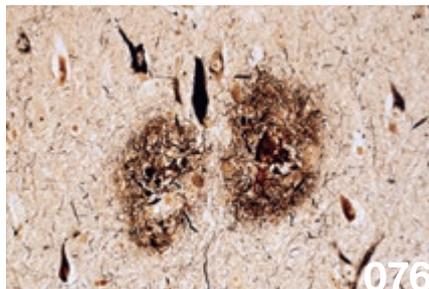
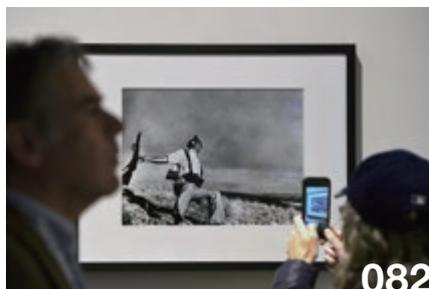
音楽家として、母として 知的で優しい日本の皆様へ 椎名林檎 音楽家

81 各駅短歌 穂村 弘

89 拝啓オヤジ 相米周二

91 一冊一会

98 読者から／ウェッジから



「さらばリーマン」は休載させていただきます。

ま

ずは下の画像をご覧ください。いただきたい。これは「Stable Diffusion (ステール・ディフュージョン)」というAI

を使い、小誌記者が制作したものだ。同AIに英語で「新幹線車内から見た富士山の景色」と入力し、何度か出力を繰り返した。大きな窓や車体カラーなど新幹線らしからぬ部分もあるが、キーワードを増やしたりすれば望むイメージに近づけることができる。水彩画風など、作風も指定可能だ。

2022年夏、このステール・ディフュージョンや「Midjourney (ミッドジャーニー)」など、キーワードを入力すればそれに沿った画像を出力する「画像生成AI」が、相次いで一般向けに公開された。米ブルームバーグ通信によれば、22年10月時点でのステール・ディフュージョンの1日あたりの利用者数は1000万人に上るとされる。

これまでの画像生成AIは研究開発用途に限られ、一般公開はされてこなかった。だがこれらは一般人が使用可能なことに加え、ステール・ディフュージョンに至ってはオープンソース



画像生成AIに高品質な画像を出力させるためのキーワードは「呪文」と呼ばれている

化され、これを組み込んだ派生サービスも数多くリリースされている。「画像生成AI元年」とでも呼ぶべき状況だ。研究開発に特化したオムロンの子会社「オムロンサイニックエックス」(東京都文京区)の牛久祥孝研究員は、現在の状況を「絵画しかなかった19世紀に写真が発明されたことに匹敵する

革命だ」と表現する。

一方、こうしたテクノロジーとの付き合い方を問われる事態も生じている。22年8月に米国で行われた美術品評会では、ミッドジャーニーが出力した画像を手直した絵画が1位を獲得し議論を呼んだ。9月に静岡県が台風15号による水害に見舞われた際には、

WEDGE REPORT

「賢すぎるAI」の大競争時代 日本よ、取り残されるな

2022年、誰もが手軽に、AIに絵を描かせることができる時代が訪れた。一面的に捉えてはならない。この変化は産業界、そして社会全体にすら影響を及ぼす。

文・編集部 (木寅雄斗)

原発の運転延長を前提に 新增設への制度設計を急げ

原発の運転延長だけでは、日本のエネルギー政策の課題を抜本的に解決することはできない。革新炉開発・新增設を同時に進め、産業競争力を維持することが、安定供給の要諦だ。



遠藤典子
Noriko Endo

慶應義塾大学グローバルリサーチ
インスティテュート 特任教授



佐々木経世
Keishin Sasaki

イーソリューションズ
代表取締役社長

2

022年2月に始まったロシアによるウクライナ侵攻は、世界のエネルギー需要に大きな

構造変化をもたらした。中でも、天然ガスの約4割をロシアからパイプラインを通じて輸入してきた欧州連合（EU）は、ロシアから経済制裁への報復とみられる一部供給停止措置を受けており、代替先の確保を急いでいる。

第一はパイプラインルートの再編である。たとえばイタリアは4月、北アフリカのアルジェリアから天然ガス供給拡大について合意を取り付けた。

第二に液化天然ガス（LNG）への切り替えである。たとえばドイツは、3月に中東のカタールとLNG長期契約について暫定合意、9月にアラブ首長国連邦と合意した。足元では米国が

らの輸入を急拡大した結果、EUにおける22年のLNG輸入量は、前年1位だった中国、2位の日本を上回る事になりそうだ。仮にロシア産ガスを全てLNGで賄う場合、世界で流通する総量の3分の1程度を奪う必要があるとみられている。

第三が原子力発電所の運転延長である。原発廃止を表明していたドイツは、22年末に廃止予定の3基のうち2基について稼働できる状態を23年4月中旬まで保つと改めた。同じく脱原発を唱えていたベルギーも、25年に閉鎖予定だった2基について、10年間の運転延長を決めた。

一般家庭への配給不足すら想定されたこの冬の深刻な天然ガス不足は、各国が在庫を積み増した結果、どうか克服できる見込みである。実際、8

新潟県にある柏崎刈羽原子力発電所ではすべての原子炉が運転を停止した状況が続いている



KYODO NEWS/GETTY IMAGES

PART 1 農業の価値再考

前例がなければつくればいい ベトナム発「次の農業」

農業が持つ本質的な価値はもっと高められる。
ベトナムで「次の農業」の土台づくりを行う先駆者たち取材した。

文・写真 編集部（鈴木賢太郎）



ベトナム南部の高原地帯に位置するラムドン省にあるテンシンファーム。日本の農村のような風景が広がるこのエリアで「次の農業」の種が蒔かれている





カンボジア

ダラット★

デンシン
ファーム★

ラムドン省

ベトナム

ビンズン省
ビンズン新都市★

ホーチミン

ベ

トナム最大の都市ホ
ーチミンから飛行機に乗
ること約50分。標高約
1000mの高原地帯

に位置するダラット空港に降り立つ
と、冷涼な風がベトナム南部特有の蒸
し暑さを忘れさせてくれる。

ラムドン省の省都・ダラットは、20

世紀初頭、フランス統治時代に開発さ
れたリゾート地でもある。生鮮市場に
は、日本では目にできない色鮮やかな
野菜やパッションフルーツが所狭しと
並び、ベトナム全土への高原野菜の供
給地としての役割を果たす。街の中心

東

京・池袋から東武東上線で60分余りの場所にある埼玉県比企郡小川町は、有機農業の町として知られる。故・金子美登さんという一人の農家が1970年代に始め、徐々に仲間を増やし、今では町ぐるみで有機農業の活性化に取り組むようになった。

小川町駅から歩いて5分ほどの場所にある、フレンチレストラン「Atelico（アテリコ）」。

在英日本大使館で料理長を務めた経験を持つオーナーシェフの新島貴行さんも、有機農業の町の魅力にひかれて2021年9月にレストランを開いた。地元有機農家の野菜を使用するほか、地元特産の和紙のインテリアなど地域産にこだわる。

ランチの「里山フレンチコース」（2860円・税込み、取材時）にもふんだんに地元有機農家の野菜が使われていた。メインの埼玉県産豚ソテーには、



PART 2 有機農業

拡大し続ける世界市場 有機農業の黎明期に立つ日本

世界的に拡大を続ける有機農産物市場。一方で日本の市場はまだ小さい。日本の有機農業の現場を訪ねた。

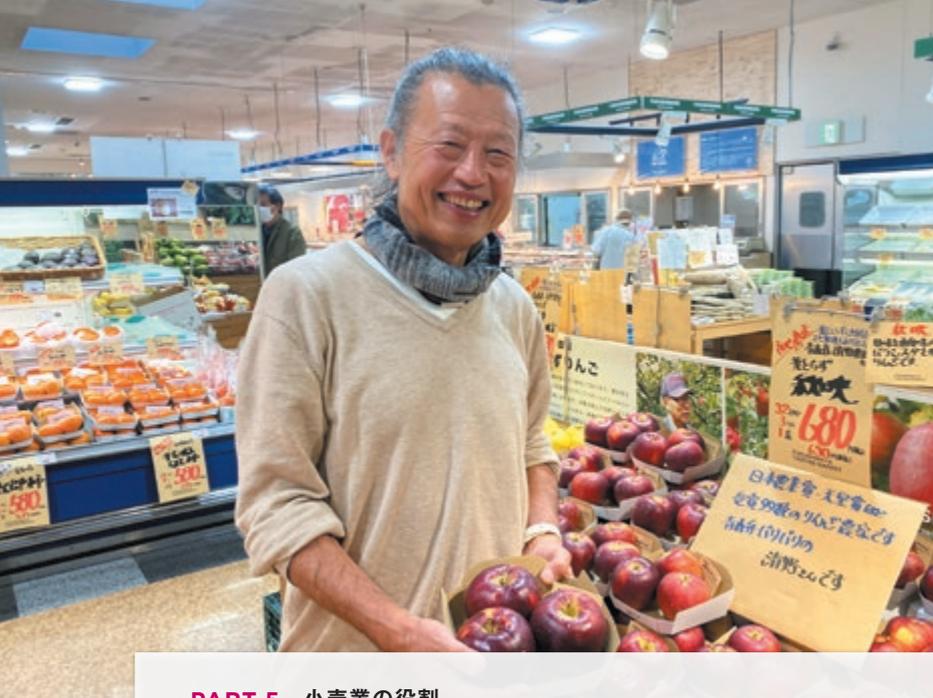
文・写真 編集部（友森敏雄）

根野菜が美しく添えられている。「風の丘ファームさんの根野菜は、味が強いのが特徴です」と、新島さんが話すように、メインの肉にも負けない旨味を感じることができた。

アテリコに野菜を供給する「風の丘ファーム」。1984年に田下隆一さんが始めた。東京出身の田下さんは20代の頃、「ものづくりをしてみたい」という思いから会社勤めを辞め、金子さんに弟子入りし、1年の修業を経て就農した。弟子入り当時、田下さんが2人目だったが、その後金子さんのもとで学んだ弟子は100人を超すという。「金子さんに教わったのは、つくるものを循環させて廃棄物を出さないことです」と、田下さん。

風の丘ファームは、露地野菜を年間80種類以上生産する。「イタリアン、フレンチなど、野菜にあまり手を加えない料理で使用されることが多いです。飲食店で使用する際は、形の良し悪しはそれほど関係ありませんし、コミュニケーションを密にして顔の見える関係になることで、どのような野菜が求められているのかフィードバックすることもできます」。

小川町では、出荷金額で約20%、耕



青森県弘前市「せい農園」の葉とらずりんごを手にする福島屋の福島徹さん（筆者撮影）

KIYONORI SASAI

PART 5 小売業の役割

「売ればよい」から脱し 小売業は「価値伝達業」たれ

こだわりの農産物を生産しても、流通過程でその価値は埋没してしまう。数々の現場を取材してきた筆者が説く小売業の使命とは。

文・笹井清範 Kiyonori Sasai 商い未来研究所 代表



堆肥や牡蠣殻、鉱物由来のミネラルなど20種類を超える肥料を用いて、畑ごと、野菜ごとに土壌を最適に「設計」。成長途中では、葉の艶、厚さ、つるの角度、色、実の成り具合などをよく観察して「生育診断」。これら2つの栽培理念を萩原さんは「西洋医学的+東

洋医学的」と表現する。作付け地は八ヶ岳北側の標高1000以上の高原地帯。冬には全てが凍りつくため露地栽培ができないが、有機野菜を原料とした漬物やレトルトスープなど、合成添加物に頼らない農作物本来の味を生かした加工品を製造することで付加価値を高めている。

と「小さな畑」と題する1枚の便り。生産者たちがつくる農場のまかない飯から生まれたというおすすめレシピにならって調理すれば、おいしさとともに生産者の顔が思い浮かぶ。

また、生産者自らが食品加工、流通販売を総合的に行う6次化商品も、取り組まれた数に比して成功例は少ない。多くが価格、品質、容量、デザインに生活者視点を欠き、かつ独自性に乏しいからだ。

その顔の主は、長野県佐久穂町の生産者「のらくら農場」代表・萩原紀行さん。日本有機農業普及協会が主催する「栄養価コンテスト」で数々の最優秀賞を受賞する彼の野菜は、選び抜かれた品揃えで人気の食料品店やおいしさで評判の料理店から引っ張りだことなっている。

こうして紙幅を割いて、のらくら農場を紹介するには理由がある。残念ながら、彼のように自ら農作物の付加価値を高め、小売業者や生活者に直接販売できる生産者は多くはないからだ。農林水産省によると国産青果物は約80%が卸売市場を経由しており、いくらか生産者がこだわった野菜をつくっても、その価値は流通過程で埋没してしまいがちだ（次頁図）。

毎

週末、楽しみにしている宅配便がある。段ボール箱を開けると、季節折々の採れたて野菜



ささい・きよのり 1964年生まれ。商業経営専門誌「商業界」で現場取材を重ね、2007年より編集長。幅広い業種や企業を取材し、その数は25年間で4000社を超える。2020年に商い未来研究所を設立。

「西洋医学的」と表現する。

作付け地は八ヶ岳北側の標高1000

以上の高原地帯。冬には全てが凍りつ

くため露地栽培ができないが、有機野

菜を原料とした漬物やレトルトスूप

など、合成添加物に頼らない農作物本

来の味を生かした加工品を製造するこ

とで付加価値を高めている。

こうして紙幅を割いて、のらくら農

場を紹介するには理由がある。残念な

がら、彼のように自ら農作物の付加価

値を高め、小売業者や生活者に直接販

売できる生産者は多くはないからだ。

農林水産省によると国産青果物は約80

%が卸売市場を経由しており、いくらか

生産者がこだわった野菜をつくっても、

その価値は流通過程で埋没してしま

いがちだ（次頁図）。

また、生産者自らが食品加工、流通・

販売を総合的に行う6次化商品も、取

り組まれた数に比して成功例は少な

い。多くが価格、品質、容量、デザイ

ンに生活者視点を欠き、かつ独自性に

乏しいからだ。

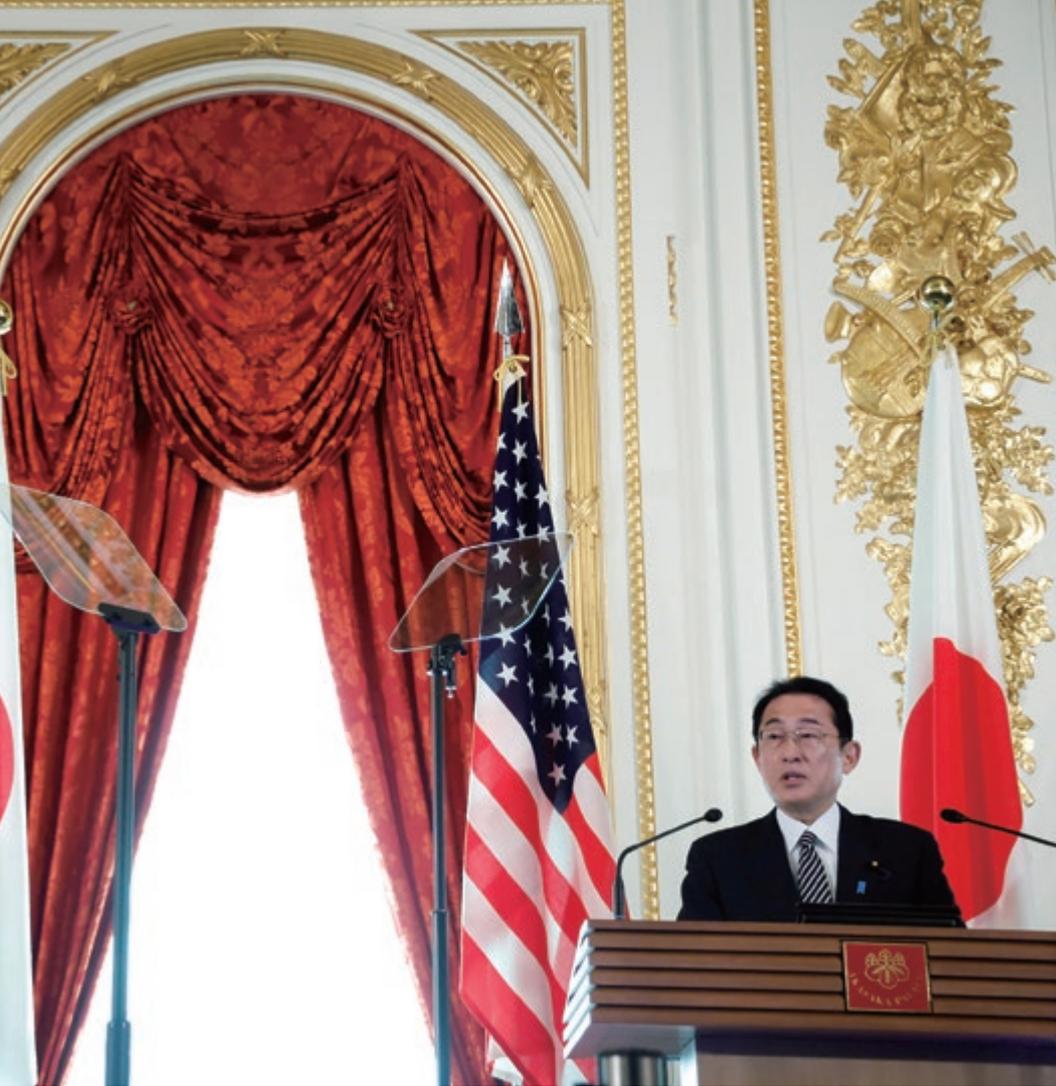
農作物の付加価値は、生産者と生活

者を知り尽くした価値伝達者こそが高

められる。それは両者の間に立つ存在

であり、両者の役に立つことを使命と

世界は「動乱の時代」へ 2023年、日本外交の課題



REUTERS/ARLO

2

022年は動乱の年となった。2月にはロシアによるウクライナ侵攻が始まり、国家間の

全面戦争という悪夢が現実のものとなった。戦争に伴いエネルギー・食糧安全保障が世界的に脅かされ、影響が収束する見通しは立ちそうにない。

8月には中国軍が台湾近海で軍事演習を実施し、「第4次台湾海峡危機」が勃発した。偶発的な衝突が起こる可能性が増し、緊張感が高まる一方だ。また中国やイランでは、体制打倒をも訴える抗議運動が活発化している。

これらのリスクは、来たる23年にそのまま持ち越されるだろう。この「動乱の時代」にあって、日本という国家のあり方が問われている。22年10月に発表された米バイデン政権の「国家安全保障戦略」は、ウクライナ侵攻勃発

後であっても中国を「国際秩序を再構築する意図と能力を持つ唯一の競争相手」とし、インド太平洋を最重要視する姿勢を示している。

その中では、もはや日本も受け身ではいられない。23年は日本外交の真価が問われる年となるだろう。中間選挙を経て「ねじれ」状態となった米国との同盟の行方はどうなるのか。ウクライナ侵攻時にロシアを擁護する姿勢を見せ、日本を困惑させたインドとはどう付き合っていけばいいのか。米国は手を引きつつあるものの、いまだエネルギー資源の多くを依存する中東と、日本はどう接するべきなのか――。

それらは必然的に、日本にとっても最大の脅威である中国をいかに抑止し、自国の安全を守るのかという一点に集約される。23年の日本外交の課題は何か、考察した。

インド太平洋は米国にとっての最重要地域であり、その中で最重要同盟国が日本であることは、政権によらず変わらない

SPECIAL OPINION PART 1 U.S.A.

米国政治は荒れ模様 それでも日米同盟は揺るがない

米中間選挙で、バイデン政権は予想外の善戦を見せた。
今後、米国の外交政策はどう変化するのだろうか。



ザック・クーパー Zack Cooper

アメリカン・エンタープライズ研究所 (AEI) 上級研究員

米国家安全保障会議 (NSC) テロ対策チーム、米国防総省筆頭国防副次官特別補佐官などを経て現職。コンサルティング会社「アーミテージ・インターナショナル」パートナー、米プリンストン大学講師も務める。



米

国の中間選挙で与党・民主党が連邦議会下院の多数派を失ったにもかかわらず、バイデン政権は選挙での勝利と見なし、士気が高揚している。だが、長期的な影響は依然、不透明だ。今回の選挙は米国の外交政策をどう変えるのか。また、選挙結果は日米同盟にどんな影響を及ぼす可能性があるのか。

起きなかった「赤い波」 トランプ氏の敗北か？

米国の中間選挙では現職の大統領の与党が負けるのが普通で、それも大敗を喫することが多い。大統領が不人気だったり、経済が不振だったりする時には、特にその傾向が強い。民主党は2022年、両方の要因について心配していた。バイデン大統領の支持率は2桁も低下しており、米国経済は景気後退に向かっていくように見える。この状況は民主党が上下両院で過半数を奪われ、相当数の議席を失いかねないことを示唆していた。

ところが、共和党が期待した「赤い波」は起きなかった。民主党は下院の

多数派を失ったが、上院は維持した。このためバイデン氏と民主党は中間選挙を終えて新たな活力と楽観主義を手に入れた。実際、12月6日のジョージア州の上院選決選投票で勝てば、上院で1議席増やす可能性さえある(編集部注・12月7日、ジョージア州上院選決選投票で民主党の現職候補の当選確実が報じられ、これで民主党の上院の議席数は過半数の51議席となった)。端的に言えば、これは現職大統領の与党にとって過去20年間で最も良い中間選挙の結果だ。

さらに、共和党は驚くほどの僅差で下院の過半数を押しえただけで、特に党内の保守強硬派「フリーダム・コーカス(自由議連)」の一部議員の反動的な性質を考えると、共和党指導部は難しい舵取りを迫られるだろう。

共和党下院トップのケビン・マッカーシー院内総務が次の下院議長になる見込みだが、議論を呼ぶ多様な争点について大きく割れた党を運営するのが難しいことを思い知らされるだろう。トランプ前大統領の存在も、共和党の公職者を結束させる努力に影を落とす。

一見すると、選挙結果はトランプ氏

第3回

椎名林檎

Ringo Sheena

音楽家として、母として 知的で優しい日本の皆様へ

国民的アーティストであり、3人の子を持つ母でもある。
出産、子育て、コロナ禍を経た椎名林檎が今、伝えたいこと。

文・河合香織 写真・中村 治



椎

名林檎はアーティスト活動の一切を辞めていた時期がある。それは21年前の2001年、長男を産

み、子育てに没頭している最中だった。

「21歳で子どもを産み育てているときに、もう自分の人生ではなくなったと思いました。自分が親にもらったことを全部、いや、もっとたくさんの子どもに残したいと。でもなかなかその通りにできず、焦っていた。当時は仕事なんて金輪際できないと思いました」

1998年に『幸福論』でデビューし、翌年にはファーストアルバム『無罪モラトリアム』がミリオンヒット、2000年の『勝訴ストリップ』は250万枚を超えた。スターダムに登りつめた途端、なぜその地位を捨てようと思ったのか。

01年9月11日、椎名は授乳の合間に、テレビのバラエティー番組を見ていたという。その瞬間、パッと画面が切り替わって、米ニューヨークの世界貿易センタービルが倒壊する映像を目にした。恐ろしかった。同時に彼女は「自分が恐怖感を感じているように、こうやって不安に震えながら頼りないわが子を抱えた女性たちが全世界にいるんだ」と思った。

「その人たちに同調し、その思いを表す曲を書いて、密かにどこかへ置いておくのが自分の使命だと思ったんです」

女性にしか味わえない

複雑な喜びがある

女性たちに同調する根底には、自身の母親への思いがあった。椎名は「私は先天性食道閉鎖症などを伴う奇形で生まれた」と語る。

病気がすぐに見付かったわけではない。母乳もミルクも何も消化できずに、もう助からないと思われた。偶然その病院を訪れていた森川康秀医師が原因を突き止め、2日に及ぶ大手術を行い、椎名の命をつなぎとめた。

「母は病気だった私を育てるのに、容赦なく厳しかった。何があっても病気を言い訳にせず強く生きていけるよう、しつけないければならなかったのでしょう」

椎名自身も、子どもを産み、自分も同じ母という立場になった時、「母を理解できた」と語る。

「その瞬間に、世界中の女性、老いも若きも、自分の母と重なった。自分の人生でなく、次の新しい世代に対して、無償で尽くしてしまうのが女性の性だと思

知った。けれど、その女性たちへのケアは誰がするのか。そのことに思い至ったとき、彼女たちへの愛が溢れ返ってきた」

その思いは、子を産んでいようと、産んでいまいと変わらない。

「女性がそういう生きものなんだと思った時に、哀れみだったり、慈しみだったり、愛おしみだったり、やり場のないほど湧いてきた。私が、生涯を通して関わってゆくべき、表現してゆくべき対象だと思ったんです。大勢すぎるし、記号的でもあるし、一人ひとり考えも違う。けれども、全ての女性性が、自分に無償の愛情を注いでくれた母と重なって見えたし、わが子とも重なって見えました」

自分の人生は自分だけのものではない。かといって、自分の子どもものだけでもない。その複雑な喜びは、女性にしか味わえないのではないか。母であるかどうかによらず、女性だけが感覚的に知っている眩しさがあるんだと感じた。

彼女はすべての生きものを包み込む愛情の不思議な感覚に圧倒され、最後には、音楽を発信していく道を選んだ。

だが、「女性のことを考えている」と椎名が発信すると「味方をしてくれて嬉しい」という反応が女性たちから届く一

椎名林檎
Ringo Sheena
音楽家

1998年『幸福論』にてメジャーデビュー。1stアルバム『無罪モラトリアム』、2ndアルバム『勝訴ストリップ』は共にミリオンセラーを記録。2004年から12年まで『東京事変』の活動も並行（20年に再始動を発表）。09年に芸術選奨新人賞（大衆芸能部門）受賞。